



立野

練馬区立立野小学校
平成28年 2月号
<http://www.tateno-e.nerima-ky.ed.jp>

いじめ防止は 毎日の生活から

副校長 加納 聖一

つい先日のことです。通勤で駅に向かう途中、ご近所の庭先で梅のつぼみが膨らみ始めたのを見つけました。暦では「大寒」を迎え一年で一番寒い時期となりましたが、2月3日は冬と春とを分ける「節分」、4日は「立春」と呼ばれ、暦の上では春です。まだまだ厳しい寒さは続きますが、春の到来を感じさせてくれる嬉しい発見でした。

さて、練馬区では、学校が子供たちにとって「安心して過ごせる穏やかな場所」となるよう、いじめの未然防止と早期発見・早期解決を目指して、1年間に3回、大きな取り組みを行っています。6月の「ふれあい(いじめ防止強化)月間」、11月に行った「いじめ一掃取組月間」、そして2月に行う「ふれあい(いじめ防止強化)月間」です。どの取り組みでも、子供たちにアンケートを取り、学級での人間関係や自分の気持ちを自ら書き記すことで学校生活の振り返りをさせます。その際、自分が嫌な気持ちになったときばかりでなく、相手を嫌な気持ちにさせてしまったときの振り返りも大切にしています。また、標語やシンボルマークを作る活動を通して、子供たちの“いじめを許さない”態度や行動を醸成させています。本校でも、この年3回のいじめ一掃の取り組みを軸に、子供たちの学校生活を注意深く見守っていますが、一番大切なのは、教師や子供自身が毎日の生活を見つめ振り返ることだと考えています。

本校の教員は、子供たちが登校してくる時間帯は、教員が交代で朝のあいさつを行い、8時15分の入室時刻には、担任が教室で子供たちを迎えています。そこで、一人一人の子供とあいさつを交わしながら、その表情を注意深く観察し見守ります。休み時間には、子供たちと一緒に遊んだり様子を見守ったりしながら、学級内の人間関係の把握に努めます。集団の遊びになかなか入れない子供を見かけると、声をかけたり一緒に遊んだりしています。意図的にクラス遊びを企画して、皆と一緒に遊ぶ楽しさと難しさを体験させている学級もあります。また、休み時間は、子供同士のトラブルが発生しやすい時間帯でもあります。そんな時は、子供たちの気持ちを聞いた上で、相手の気持ちや学校のルールにも目を向けさせ、解決の糸口を探る手助けをしています。

学級や学年というのは、小さな集団ではありますが、他人と一緒に過ごす社会です。社会の中では自分の気持ちや感情だけで行動できません。こんなことを言ったら相手はどんな気持ちになるだろうと、相手の気持ちを推し量る力が必要です。この、人を思いやる“心・態度・行動”を育てていくことが、いじめのない安心な学校づくりに繋がると考え、日々の実践を積み重ねています。

そして、下校後は、保護者の皆様の出番です。帰宅したお子さんとたくさん話をしてください。お子さんの何気ない言葉や行動には、その日の子供の気持ちが表れています。まずはお子さんの気持ちを受けとめてあげた上で、「その時、お友達はどんな気持ちだったか」にも目を向けさせてください。

学校とご家庭が一体となって、自分自身と同じように相手のことも大切にできる子供を育てていきたいと考えております。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。